



孫子経営塾卓話

25の疑問で考える大東亜戦争！ (拙稿メモランダム200(+)話を俯瞰して)

令和3年7月24日(土)

(公財)大東亜慰霊協理事長
山下輝男

孫子経営塾卓話

去来する疑問の数々

大東亜戦争メモランダム

自分なりの大東亜戦争の解釈を



Q 1



Q 日本は米英蘭に対して、無謀な戦いを挑んだのか？戦争回避の方策はなかったのか？

- 1 日米開戦前の国力判断の妥当性は？
- 2 米国の対日戦略に関する論考
- 3 日米和平交渉
- 4 軍事的に一縷の望みもなかったのか？
- 5 開戦決意に関する苦悩
- 6 日米戦回避の可能性？



Q1 日米戦開戦前の国力判断(1)

- 1 日米の国力判断
 - ①GNP比 (米研究者)
日：2000億ドル 米：9300億ドル (1940)
 - ②企画院による物動計画(1940/8)
 - ③秋丸機関 次VG
 - ④陸・海軍 次次VG



Q1 日米戦開戦前の国力判断(2)

- ③秋丸機関 (陸軍省戦争経済研究班 秋丸次朗中佐 有沢広巳、中山伊知郎等々錚々たるメンバー、6個班編成、総勢百数十名から二百名)
- 巷間流布：日米＝1：2.0、開戦後二年間は、貯備戦力によって抗戦可能、それ以降は我が経済戦力は下降を辿り、彼は上昇始めるので、彼我戦力の格差が大となり、持久戦には耐えがたい。」
- 東大所蔵資料「英米合作経済抗戦力調査(1)の「判決」では、英国が弱点、米英連携の弱点は海上輸送力にある。米国は開戦1年乃至一年半後に潜在力発揮、離間策、対独戦、反戦機運醸成等となっている。
この結論に基づき、戦争終末促進に関する腹案が策定された。



Q1 日米戦開戦前の国力判断(3)

- ④陸軍省戦備課の物的国力判定 (1940/1/18)
 - 海軍
 - * 何れの判断も極めて厳しいもの。
 - 船舶予想量の判断が肝
海軍省：船舶被害上回る造船能力で補充可能と判断 大甘
 - 11月29日天皇と重臣の懇談時の
岡田首相：成算ありや甚だ心配
米内海相：じり貧を避けんとしてドカ貧にならぬよう

**Q1 ル大統領の対日政策(1)**

- ル大統領の「宣戦はしないが戦争はする。」の各種政策
ソ連承認、国民政府へのテコ入れ、
三選公約の足枷離脱策(対独戦参戦の口実のための対日挑発?)

- ① 対国民政府支援
国民政府への1億ドルの借款供与 (1940/12) 、
武器貸与法成立(1941/3) 、
フライングタイガース派遣 (戦闘機と空軍兵士) 、
(10話義勇兵という名の参戦)
対日長距離爆撃計画の承認 (1941/12)
- ② 対日経済制裁等 ABCD包囲網の構築
・ 1939 (S14) 年
日米通商航海条約破棄通告(7月)
モラル・エンバargo (道義的輸出禁止)
航空機エンジン製造設備等(12月)

**Q1 ル大統領の対日政策(2)**

- ・ 1940 (S15) 年 日米通商航海条約失効(1月)、特殊工作機械等の対日輸出の許可制(6月)、国防強化促進法成立(大統領の輸出品目選定権限)(7月)、鉄と日本鉄鋼輸出切削油輸出管理法成立(7月)、石油製品(主にオクタン価87以上の航空用燃料)、航空ガソリン添加剤四エチル鉛、鉄・屑鉄の輸出許可制(8月)、航空機用燃料の西半球以外への全面禁輸(8月)、屑鉄の全面禁輸(9月)、航空機潤滑油製造装置ほか15品目の輸出許可制(12月)
- ・ 1941 (S16) 年
石油の輸出許可制(6月)、日本の在米資産凍結(7月)、石油の対日全面禁輸(8月)*
- ③ 軍事的措置 (対日作戦計画の検討策定は当然)
・ 海軍力増強・第二次・三次ヴィンソン案(1938、1940)、
両洋艦隊法(スターク法)(1940/7) (日米建艦競争119話参照)
・ 太平洋の各島嶼に航空基地や潜水艦基地等、比の軍備
・ 軍需産業のフル活動化
* (開戦前: 日(101万トン)米(143万トン))
- ④ 日米交渉で、時間稼ぎ?

* 日本の石油依存度 対米依存度 8割(いわば存立危機事態)

**Q1 日米戦回避の可能性(1)**

- 日米交渉
日米諒解案(N工作)
日米首脳会談
東條内閣の対米交渉案(甲案、乙案)
暫定協定案
ハルノート
- 日米交渉の最大のネックは支那からの撤兵
日清・日露戦による日本の権益、兵士の血
- 米英可分・不可分論と米戦略研究所の論考
次 VG

**Q1 日米戦回避の可能性(2)**

- 米英可分・不可分論と米戦略研究所の論考
南方要域攻略は直ちに米が参戦するか否かの判断
米を刺激せぬ事は可能であった。
- 『日本は蘭印のみに対して資源獲得を強要するか、
或いは英蘭のみを攻撃していたら、戦争は違った局面を迎えたであろうし、自ら先制し得ないル大統領は切齒扼腕したのではないかと思えるのだが・・・』
斯様に指摘している米歴史学者も存在する。強ち荒唐無稽ではない。何れにしても、米国の孤立主義を十分に認識していなかった、或いは軽んじたというべきか? 戦争相手を知らざりし!

**Q1 日米和平交渉は**

- 1 日米諒解案(1940/11/25 ~)
民間外交から政府間交渉へ、野村大使、陸軍も同意し妥結の可能性
松岡外相の反対提案で暗礁に
 - 2 日米首脳会談の模索 近衛首相
松岡外相を更迭し、8/8日米首脳会談を提案
ル大統領は乗らず
 - 3 東條内閣の対米譲歩案「甲案」「乙案」
天皇の意向に沿い、対米譲歩案を決定→ハルは無視
 - 4 暫定協定案
米国は暫定協定案 列国の反発で破棄
 - 5 ハル・ノート 1941/11/26
日本が受け入れられないのを承知で
米側の最後通牒か
- * 米国: 時間稼ぎ、条件吊り上げ→和平の意思なし!
支那撤兵が肝だが、揺れる日本?

**Q1 日米和平交渉のポイント**

- 東條内閣の対米交渉最終案(甲案、乙案)
相当譲歩した甲案と更に譲歩した乙案
1941/11/20 乙案ハルに提示
暫定協定案を検討と回答(引延し策?)
- 幻の暫定協定案 (11/22)列国に提示
蒋介石の猛反発、チャーチルも反対
日本への提示なし
- ハルノート (11/26) 野村・来栖両大使に提示
中国仏印からの撤兵要求etc
東郷外相「目も眩むばかりの失望・・・帝国の立場を無視せるもの

**Q1 軍事的な可能性**

戦争終末促進に関する腹案(1941/11/15)
「南方要域攻略後、西太平洋における政戦両略上の長期不敗態勢を確立」

- 1 米国の介入を許さない状況作爲
米国の根強い孤立主義(80%以上、三選公約)刺激せず、軍事的対決回避
- 2 長期不敗態勢の確立
資源、SLOC、要撃態勢の確立



大東亜戦争は全く違った様相になった可能性もある。

**Q1(参考) 永野大将の苦悩等**

- 1 軍令部次長を米国通に交代
- 2 松岡外相等の北進論に対し、南部仏印進駐
- 3 対米戦勝利の可能性判断
天皇への上奏、奉答 望まないが、打って出るしかない
勝利の機会は時間とともに喪失
- 4 山本の真珠湾攻撃に対し、投機性高しと判断するも、結局折れた。
- 5 帝国国策遂行要領策定
中途半端な臥薪嘗胆は不可。腹を据えて米国に譲歩するか、戦うなら今しかない、2年以上は無理
- 6 9月6日御前会議後
「戦わざれば亡国と政府は判断されたが、戦うもまた亡国につながるやもしれぬ。しかし、戦わずして国亡びた場合は魂まで失った真の亡国である。しかして、最後の一兵まで戦うことによるのみ、死中に活路を見出さるであろう。戦ってよしんば勝たずとも、護国に徹した日本精神さえ残れば、我等の子孫は再三再起するであろう。そして、いったん戦争と決定せられた場合、我等軍人はただただ大命一戦に赴くのみである」

**結論的には**

- 1 日本の選択肢は？
ジリ貧か、ドカ貧か、
確率は低くとも可能性ある策（腹案）
- 2 無謀とまでは言えない。
- 3 自らは望まず、追い詰められた感
- 4 米不介入・分離策、対米戦回避、当初の戦略通りの作戦→局面は異なり、
一縷の可能性無きにも非ず

**Q 2**

Q 支那事変を解決せずして、対米英蘭戦を開始するのは如何なものか？解決を希求するも解決し得なかったのは何故か？対支戦を甘く見過ぎたのか？

- 1 支那事変概観
- 2 支那事変長期化の原因？
- 3 様々な和平工作は？
- 4 二正面(対ソ、対支) 作戦回避の可能性？
- 5 支那からの撤兵の可能性は？
- 6 蒋介石政権の宣伝戦、コミンテルンの暗躍

**Q2 支那事変概観**

支那事変概観 (1937/7/7～)

- ① 盧溝橋事件不拡大方針とその破綻
 - ・不拡大・現地解決方針決定
 - ・現地停戦協定成立 (7/11)
 - ・停戦協定違反事件が頻発
 - ・内地師団の派兵 二度派兵決定し、二度中止決定
 - ・廊坊事件、広安門事件→内地師団の派兵決定
 - ・日本軍は中国軍29軍に対し全面攻撃開始(7/29)
- ② 第二次上海事変(1937/8/13～) で中支拡大
 - ・支那軍の上海攻略準備推進 独軍顧問団の進言
 - ・長江沿岸に留邦人の保護 反日・排日事件の頻発
 - ・8・13日支両軍の衝突
 - ・二個師団の派遣決定、上海派遣軍編成、渡洋爆撃開始、増派
 - ・10/16 上海制圧、南京への追撃作戦
- ③ 対支一撃論に基づく作戦遂行
 - ・徐州会戦 (1938/4/7～) 武漢作戦(1938/8/21～)
 - ・広東作戦 (10/12～)、重慶爆撃、宜昌作戦(1940)
 - ・長沙作戦(1941)、江北殲滅作戦(1943)、
 - ・江南殲滅作戦(1943) 常德殲滅作戦(1943)、
 - ・大陸打通作戦(1944)、湖南省等(1945)

**Q2 支那事変長期化の原因**

- 1 欧米の援助
- 2 蒋介石政権、国民の戦意判断誤り
- 3 捕捉し得ず、逃げられ、失敗をカバーせん
と次の作戦
- 4 対支一撃論は奏功せず
- 5 陸軍省部首脳陣の意見対立
- 6 政略の腰が据わらず
- 7 近衛首相の声明が将政権や欧米を刺激
- 8 挑発に乗せられた
- 9 北方を睨んでの作戦で、戦力は？
- 10 和平条件吊り上げ
- 11 傀儡政権に対する認識

**Q2 様々な対支和平工作**

対支和平工作

- 1 船津和平工作 船津氏を通ずる和平工作 日本大幅に譲歩案
大山海軍大尉事件で頓挫
- 2 トラウトマン工作
英国斡旋は蒋介石拒否、
独大使による和平交渉 解答保留中に上海南京攻略で打ち切り
- 3 汪精衛(汪兆銘)を通じての和平交渉
時既に蒋介石政権内で主戦論が強くなり頓挫
- 4 その他
孔祥熙ルート、スチュアート・汪克敏ルート
満鉄と浙江財閥関係者ルート、米国仲介ルート
日華基本条約、南京政府の枢軸諸国承認
桐工作

相手側が応じる気があるかどうか？

和平に対する熱意は
二元外交的な和平交渉

思い切った決断が出来ぬ風土？

裏で暗躍したのは？

国共合作をさせずに和平追求

対支、対米の二正面回避の

大胆な決断は無理だったのか？

日支双方にとっての主敵は誰だったのか？

**Q2 支那からの撤兵は？**

支那からの撤兵決断は、出来なかったのか？

日支和平交渉で最も期待されたのは「桐工作」
蒋介石は有利な条件で講和可能と判断
(援蒋ルート英仏閉鎖、国共内戦)
第二次近衛内閣
東条陸相は桐工作中に冷淡
日支の懸案は①満州国承認問題 ②日本軍の駐兵問題
支那派遣軍は桐工作中止、東条陸相は「駐兵問題は心臓」発言

日米交渉も支那駐兵問題で膠着状態

最終段階では支那からの撤兵をも譲歩（甲案・乙案）

* 日本陸軍としては、撤兵は容認できないものだったと思う
が・・・最後にはやむなしとの判断もあったにも拘らず、機を失した？

参考：日清戦争2億円、13300名、日露戦争18億円 84000名
満州の権益：旅順大連等の租借権、南満州鉄道、採掘権等

**Q 3****Q 日本の開戦前「戦争指導構想」は妥当だったのか？**

- 1 戦争指導計画＝「対米英蘭戦争終末促進に関する腹案」(1940/11/15)の概要
 - ・決定までの経緯
 - ・内容
- 2 その妥当性に関する評価等

**Q3 戦争終末促進に関する腹案**

1 経緯

1941/9/6 御前会議「帝国国策遂行要領」決定)

9/7～10/3 対米英蘭戦争遂行要領の研究討議

(陸・海軍、外務省の戦争指導課長レベル)

1941/10/16 東条内閣発足(白紙還元)の御説)

・東条首相 戦争終結方策の研究命ず(主務石井秋穂大佐)
(腹案策定)

天皇の御軫念を体しての措置

1941/11/15 「腹案」大本営政府連絡会議決定

**Q3 戦争終末促進に関する腹案(2)**

2 意義等

- ・ 日米英蘭戦開戦前における唯一の「戦争指導計画」
飽くまでも「腹案」との位置付けではあり、天皇の
裁可は受けてはいない。
然しながら、大本営政府連絡会議で決定している
ことから公式的なもの
- ・ 開戦直前の時期での決定
- ・ 秋丸機関の最終報告書に依拠

**Q3 戦争終末促進に関する腹案(3)**

3 腹案の概要

- ・ 先ず、南方要域を攻略して自存自衛の確立
- ・ 積極方策により蔣政権の屈服
- ・ 独伊との連携により英の屈服→米の継戦意思を
喪失 (インド洋作戦、西アフリカ作戦等)
- ・ 南方要域確保して戦略上優位の態勢&SLOC防護
→長期持久態勢
- ・ あらゆる手段を尽くして適時米海軍主力を誘致し
撃滅に勉める

**Q 3 腹案の破綻****戦争終末指導構想は、何故破綻したのか？**

的確で唯一の戦争指導計画であったとも言える「戦争終末促進に関する腹案」(1941/11/15)は何故破綻してしまったのか？

- ① 腹案で想定していない真珠湾攻撃を敢行
GF長官のごり押し
- ② 海軍第二段作戦
- ③ 蒋介石政権屈服できず

**Q 3 真珠湾攻撃****Q 真珠湾奇襲攻撃をどう評価すべきか？**

真珠湾奇襲攻撃(1941/12/8未明)壮大、奇跡的
山本大将の発意(1941/1/14頃)

大西少将への手紙

米国艦隊に痛撃→西太平洋進攻不能に

*米空母群不在

*燃料タンク、ドックへの攻撃なし

*米国の恥辱の日

*チャーチル “連合国は勝利した”

真珠湾論争：陰謀論、通告遅延問題、

*ウィンド・メッセージ論争、

*ル大統領天皇親電問題(12/7)

*太平洋艦隊囮説、

**Q3 真珠湾奇襲攻撃の評価**

- 1 対日参戦の切っ掛け、口実
- 2 米国の対日敵愾心に点火・激化・昂揚
- 3 攻撃目的は？真珠湾攻撃の不徹底
米国本土までを攻撃するほどの戦果拡張がない限り無意味、兵站・空母群無傷、戦艦を目標？
- 4 抑々日本の軍事戦略に本計画はあったのか？
対米戦は短期決戦の連続とのGF司令長官の戦略の妥当性は？ **腹案の破綻**
- 5 太平洋の日米分割覇権が海軍の狙いだった筈
- 6 米国の対日牽制策に乗せられた？
- 7 国家戦略の分裂

**Q 3 (参考)**

*ウィンド・メッセージ論争

1941/11/19 非常事態時の特別メッセージ

短波放送のニュースに入れる。

日米関係危険：東の風雨、二回繰り返す

・米国で大問題化：当局者知っていたのでは？
日本には公式資料なし

*ル大統領天皇親電問題(12/7 1100に発電)日本時間

大統領の狙いは？ 和平努力実績作り

時既に開戦の聖断降下

南部仏印進駐に対する懸念

親書遅延問題(グルー大使、天皇)もある。

意図的に遅延させる

**Q3 妥当性に関する評価は？**

- 1 本腹案の性格：終末構想としての権威、十分な分析検討は？ 単なる願望の列挙との酷評も
- 2 軍事的に米を屈服させられないとすると、この案以外には妥当な案は見当たらない。
- 3 蔣政権との早期和平に陸軍は消極的、屈服不能
- 4 本腹案にもない真珠湾攻撃を行ったことの是非、更には海軍第二段作戦を許容するような妥協的な内容を胚胎 南方作戦以後の作戦失敗の原因
- 5 「独伊」就中「独」に対する過大な期待が前提？
- 6 米の継戦意思喪失は可能なのか？ 甘い？
- 7 米の戦争準備の完成前が開戦時期としてはベター

**Q 4**

Q 対米英蘭戦、初期進攻作戦は順調なるも、爾後の作戦は頓挫した。何故だろう？

- 1 初期進攻作戦の順調な進捗
- 2 日本の戦争指導構想に内蔵する問題点？
- 3 海軍第二段作戦
- 5 初期進攻作戦後の作戦失敗の要因等



Q4 初期進攻作戦(あ号作戦)

初期進攻作戦の順調な進捗

○開戦劈頭の作戦
(正式名称「あ号作戦」、海軍は「第一段作戦」と呼称)

- ・マレー作戦 12/8～2/15
- ・ハワイ空襲作戦 12/8
- ・フィリピン作戦 12/8～1/2(5/18)
- ・香港作戦 12/8～12/25
- ・グアム作戦 12/10
- ・ビスマルク作戦 1/23～2/6
- ・蘭印作戦 1/11～3/9
- ・ビルマの戦い 12/8～5月下旬
- ・インド洋作戦 3/14～



Q4 南方作戦経過図

南方作戦経過図



Q4 初期作戦後の指導構想の混迷

- 1 南方作戦終了後の作戦指導構想の混迷
1942/3/7 「今後採るべき戦争指導の構想」決定

本構想は、陸軍が主張する長期持久戦略をメインとしつつも、海軍が切望(特にGF司令長官)する短期決戦戦略を許容しているともとれる内容となった。

明確・確固たる方針確立なし
玉虫色決着
後に矛盾露呈



Q4 戦争指導構想に内蔵する問題点

○開戦前の戦争指導計画「対米英蘭蔣戦争終末促進に関する腹案(1941/11/15)」方針

- 一 速に極東における米英蘭の根拠を覆滅して自存自衛を確立すると共に、更に積極的措置に依り蒋政権の屈服を促進し、独伊と提携して先づ英の屈服を図り、米の継戦意志を喪失せしむるに勉む。
- 二 極力戦争相手の拡大を防止し第三国の利導に勉む。

要領

- 一 帝国は迅速なる武力戦を遂行し東亜及南太平洋における米英蘭の根拠を覆滅し、戦略上優位の態勢を確立すると共に、重要資源地域並主要交通線を確認して、長期自給自足の態勢を整う。
凡有手段を尽して適時米海軍主力を誘致し之を撃破するに勉む。

○今後採るべき戦争指導の大綱(1942/3/7)

「長期不敗の態勢を確立す」との一項の最後に、海軍側の強い要望もあり「機を見て積極的方策を講ず」追加、「確立し」とあるを「長期不敗の態勢を整えつつ」と妥協

*長期不敗態勢確立以前でも積極的方策可能

海軍第二段作戦の根拠

*長期持久を指向する陸軍案に、短期決戦を企図する海軍が異論、妥協の産物と



Q4 海軍第二段作戦

海軍は、初期進攻作戦後の作戦として第二段作戦を計画実施

海軍第二段作戦

南方作戦占領地の防備のための米豪連絡遮断、早期終戦のためのハワイ占領が目的

連合艦隊:MI作戦、続いてFS作戦、軍令部:MI作戦反対、フィジー攻略長官の辞任をちらつかせての桐喝に屈した。

*MI作戦:チャーチルの日本海軍牽制要請を受けたドワリットル空襲に触発

計画概要

- 1942/5 MO作戦(ポートモレスビー攻略)
- /6 MI作戦(ミッドウェー攻略作戦)
- /7 FS作戦(フィジー及びサモア作戦)

○5/5 大海令発令

経過

- 6/5 MI海戦 空母4隻喪失
- 7/11 MI,FS作戦中止
- 基地航空部隊のガダルカナル進出で米豪遮断を企図
(作戦課同士の通知のみ?) (1942/6 ガ島飛行場建設決定)
- 海軍第三段作戦 1943/3/25 発令



Q4 攻守転換点の戦いに惨敗、構想逸脱

- 1 海軍第二段作戦
GF長官の脅迫に屈した軍令部は、ミッドウェー作戦を承認
空母4隻、搭載機290機を喪失する大惨敗
- 2 ガダルカナル島に海軍飛行場建設
(1942/8初旬完成目標)
米海兵第一師団18000名が上陸(1942/8/7)
爾後、ガ島争奪を巡って日米が死闘
- 3 インド洋正面の作戦は低調
(英国は日本軍の太平洋正面転用を切望)



終末促進構想から逸脱し、太平洋の戦いがメインに

**Q4 問題点は何か**

- 1 当初の構想にない作戦を独善的に敢行した。
- 2 海軍主力が太平洋正面に転用され、結果的にインド洋における作戦は極めて中途半端

インド洋作戦の狙い

- ①インド独立に寄与
- ②在エジプト英軍への補給路切断
- ③対ソ援助ルート阻止
- ④援蒋ルート阻止

- * チャーチルは、セイロン沖海戦(1942/4/7)後の4月7日ルーズベルトに悲鳴の書簡を发出

**Q4 参考 援蒋ルートについて**

日本軍は、蒋政権を追い詰めるもその屈服も出来ず、政治的和平の機会をも掴めず、百数十万の兵力を大陸に展開していた。

蒋政権を支えたものは、連合国の大量の援助
そのルートは、

- ①仏印ルート 1938/10 広州占領により遮断
- ②香港ルート 1940/9 北部仏印進駐により遮断
- ③ソ連ルート 独ソ戦開始により消滅?
- ④ビルマルート
ビルマ公路 1942日本軍のラングーン占領により遮断
レド公路 ビルマ公路の代替

ビルマルートの無効化にはインド洋・ベンガル湾の制海が必要

**Q4 初期進攻作戦後の失敗の要因等**

- 1 構想に内蔵する問題点の噴出
- 2 対米戦に関する陸海軍の基本的立場の相違
山本大将の意向
(赫赫たる戦果に誰も異論挟めず)
- 3 暗黙の陸海軍間の戦域分担
- 4 戦略調整システムの不存在
- 5 軍事戦略上は、攻勢終末点の把握誤り

**Q 5**

Q 長期不敗態勢の確立は何故出来なかったのか? 南方資源地帯を占領したのだが、その活用が図られたか? 内地への選送は何故出来なかったのか?

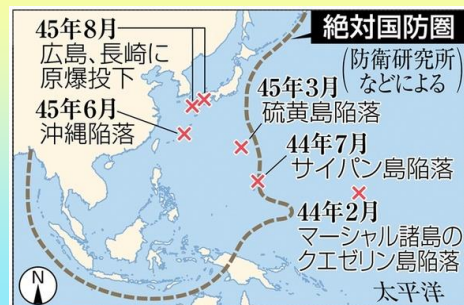
- 1 長期不敗態勢確立の条件
- 2 長期不敗の戦略態勢は?
- 3 資源地帯の確保・防護とSLOC

**Q5 長期不敗態勢の確立の条件**

- ①昭和18年9月に定められた絶対国防圏(次VG参照)を当初から指定して不沈空母と化した一大要塞群の構築
- ②内地と南方資源地帯との海上交通路の確保措置(船団護衛措置)
- ③陸軍部隊の大幅な増強、陣地構築(洞窟陣地化)準備の推進、所要の物資集積(陸軍は、太平洋は海軍担当と冷ややかだった?)
- ④航空機や船舶の増産
- ⑤米軍反攻を遅らせるための潜水艦部隊による通商破壊や艦艇攻撃
- ⑥連合艦隊の泊地の整備と防護等が必要



参考

絶対国防圏(S18年9月決定)日本の絶対国防圏と
主な戦場



Q5 長期不敗の軍事態勢は？

- 1 当初構想からの逸脱→戦面拡大へ
- 2 具体的な軍事態勢構築構想なし
- 3 戦面拡大による戦力の消耗
特に海軍戦力
- 4 陸軍の無関心・冷淡
要地に対する陸軍部隊の大規模転用なし
(陸軍は大陸、海は海軍との暗黙の戦域分担)
- 5 準備不足



Q5 長期不敗態勢:資源,SLOC?

- 油田地帯の確保
早期奪取し、軍官民の連携で、2年目には360万kℓ
(開戦時の備蓄量は770万kℓ)
- 資源地帯の防護体制
防空体制不十分、海軍による間接防御は？
- SLOC
見込み通りの内地還送が出来なかったのは、SLOC破綻・・・
第1～第4の海上防護隊を急遽創設
質量共に粗末 (SLOC防衛の思想なし?)
米軍の通商破壊作戦 潜水艦跳梁



Q 6 不沈空母化の失敗

Q 日本(海)軍の南洋群島の不沈空母化は何故失敗したのか？

第二段作戦の成功もなしに更に戦面を拡大する愚
玉砕の島々(16島)

- 1 海軍第三段作戦の発令
Z作戦要領及び邀撃帯設定
- 2 失敗の原因等



Q 6 参考:南洋群(諸)島



* 委任統治領に軍事施設建設は不可



Q6 海軍第三段作戦

方針

主作戦を南東方面に指向し、航空作戦を主体として陸軍と協同して敵の進攻を撃破し、その間にわが戦力の充実をもって**攻勢に転じて**、逐次に邀撃帯を推進して要地を確保する。

邀撃帯: 前進根拠地を中核、三線の縦深を有する基地航空群で構成
第一から第九まで設定



第三邀撃帯 内南洋
前進根拠地: トラック
第一線基地群: マーシャル、ギルバート
第二線基地群: ブラウン
第三線基地群: カロリン、マリアナ

成立の条件
①必要かつ十分な航空打撃戦力
②基地の抗堪力
③相互支援可能
④後方支援能力



Q6 不沈空母化失敗の原因等

実態は

成立の条件を満たしているか？

- ①必要かつ十分な航空打撃戦力は？
既に相当量が損耗
- ②基地の抗堪力は？
準備不足、築城能力問題
- ③相互支援可能性は？
必ずしも十分とは言えず
- ④後方支援能力は？
極めて貧弱

**Q 7 終戦構想・工作****Q 日本の終戦構想は？終戦機会の補足は**

- 1 戦争終末機会の補足は
- 2 防勢作戦間における終戦機会の補足
- 3 様々な終戦工作

**Q7 戦争終末機会の補足は**

- 1 一撃和平論
敵に痛撃を与え、或いは連合国の足並みの乱れを突いた条件付き和平による戦争終末を探る。
(軍事と外交の連携)
好守転換後は、防勢一方で一撃すら与えられず、
が、硫黄島や沖縄戦での日本軍の敢闘は、米軍に本土決戦を躊躇させるほどではあったが・・・
- 2 大胆な国策変更の提案？
現実的には採り得ない？
- 3 第三国に仲介依頼
ソ連参戦まではソ連が仲介役たりえた？ **が、然し、**

**Q7 終戦工作について(1)**

1 終戦工作の例

- ・燕京大学学長ジョン・スチュワートや上海市長周仏海を仲介者とする和平工作。
- ・日本軍今井武夫参謀副長と中国国民軍何柱国上将との和平協議。
- ・水谷川忠庵男爵(近衛文麿の異母弟)と中国国際問題研究所何世禎との和平工作。
- ・駐日スウェーデン公使ウィダー・バッゲを仲介者とするイギリスとの和平工作。
- ・小野寺信駐在武官によるスウェーデン王室を通じる独自の工作
- ・スイスにおけるアメリカ戦略事務局のアレン・ダレスを仲介者とした岡本清福陸軍武官・加瀬俊一公使や藤村義朗海軍武官らによる和平工作。

これらはいずれも和平条件の問題や日本側による仲介者への不信、時機などから、実現には至らなかった。

**Q7 終戦工作について(2)**

2 海軍の終戦研究そして陸軍

海軍省教育局長高木惣吉少将は、米内光政海相、井上成美次官の密命により終戦研究を多彩な英知を結集して行った。各方面と連携をとりながらの終戦への基盤づくりを行った功績は大きいとされる。陸軍も参謀本部戦争指導班が、戦争終結構想を模索していたが、その焦点はソ連要因であった。
宮中・重臣グループの動きも次第に急となった。

3 対ソ和平交渉

鈴木貫太郎内閣は、終戦工作がその任務。独の降伏は5/7であった。5/8最高戦争指導会議は、ソ連に和平斡旋を求めることに決した。
ヤルタ会談でソ連参戦は決定しており、ソ連に翻弄されて、実を結ぶことなく徒労に終わった。
ソ連仲介案は無理との情報はあったが、日ソ中立条約の有効性を信じて疑わなかった故にソ連に斡旋依頼をした。他に方法がなかったのは解るが、何故と思わざるを得ない。

**Q7 終戦工作について(私見)**

軍事的敗北必至という状況下での主体的終戦工作は覚束なく、至難である。

軍事的に互角かそれに近い状況でなければ和平機会は訪れないだろう。

そのような時期に終戦を策するには偉大なるリーダーシップが必要だろう。

我が国の終戦は、天皇の聖断なくしては出来なかっただろうし、聖断なき終戦であったならば、大混乱・パニックを招来しただろう。

**Q 8 情報敗戦****Q 日本の情報戦で負けたのか？**

- 1 情報戦総括
- 2 米軍の日本暗号解読率
- 3 事例
 - 海軍〇事件等
 - マッカーサーの参謀と呼ばれた男
- 4 国際宣伝戦に完敗した日本
 - 宋美齡に見る宣伝戦
 - リメンバー・パールハーバーの効果
 - 第二次上海事変以降の国際世論の変化
- 5 日本の体質・弱点

**Q8 情報戦総括****情報戦総括**

中国、ソ連に関する情報は収集できていた。
日本海軍のD暗号は破られ、そのこと自体が知られることはなかった。

米軍の日本暗号解読率(とある本によれば)
外務省:95%、海軍:70%、陸軍:0.6%

- * 日米交渉8ヶ月間の解読暗号数 223通
マジック情報
- * 陸軍暗号安泰？

**Q8 海軍〇事件等**

- (1) 海軍甲事件(1943/4/18)
待伏せ攻撃により山本GF司令長官機撃墜
(視察暗号電解読されていた。)
 - (2) 海軍乙事件(1944/3/31)
古賀GF長官機等行方不明、不時着、
暗号書等の最重要機密を奪われた。
 - (3) MI作戦:既に解読されており、攻撃予定地点(AF)が不明
米軍の機智・トリック(真水不足との平文電)にひっきり判明
 - (4) 外交電=海軍D暗号
対米最後通牒電 解読
- * 大島駐独大使の「外交電報解読の恐れあるとの
危惧報告」あるも無視した。
 - * パープル暗号機(97式暗号機)は模造されていた

**Q8 マッカーサーの参謀等**

- マッカーサーの参謀:堀栄三少佐(士46)
米軍のルソン島上陸時期場所的確な判断、
米軍の本土上陸作戦に係る情勢判断、
原爆投下機のコールサイン割り出し
- 日本の体質？
 - ・作戦重視・情報軽視の風潮あり？
 - ・情報センス
 - ・資源投下(軍官民)米国との差異
米軍:D暗号解読に執念
帝国海軍:有能な学生等の選抜育成、時既に遅し

**Q8 国際宣伝戦**

- 蒋介石夫人宋美齡女史による米国世論の劇的変化
歴史を動かした宗家の三姉妹
 - ・南京からの対米放送(NBC,CBS)
 - ・全米各地での遊説、大統領や閣僚への働き掛け
 - ・カイロ会談の通訳
- 第二次上海事変の渡洋爆撃への非難決議
 - ・渡洋爆撃(1937/8/14~16及びそれ以降も)南京、広東、杭州等への都市爆撃敢行
 - ・日本海軍航空隊の渡洋都市爆撃に対する国際連盟での非難決議(1937/9)
- 支那事変時の悲惨な写真や誇張・捏造写真等による
日本非難宣伝、非常に効果的
上海南駅の赤ん坊(ライフ紙) 写真は次図

**Q8 国際宣伝戦**

- 刷り込まれた意識を変えるのは至難
(現状の日本をみれば歴然)！
- 「上海南駅の赤ん坊」(ライフ紙1937/10/4)
歴史を変えた一枚

**Q 9****Q 戦略・戦術の大転換が何故出来なかったのか？**

陸軍はノモンハンでソ連軍に手痛い目にあっていた筈だし、海軍も大艦巨砲主義からの転換が求められていた、或いは開戦劈頭それを実証したのだが・・・。

- 1 海軍の開戦劈頭の作戦の衝撃
- 2 海軍の場合
- 3 陸軍の場合
- 4 大転換の困難性

**Q9 陸軍の場合：白兵主義からの脱却は？**

- 1 陸軍は
本来「対ソ戦備の戦力造成、戦術、訓練」を
目指してきたが・・・弱兵相手に連戦連勝、
戦場も気象条件も違う戦場で圧倒的な戦力の米軍
と対峙の悲劇
- 2 その背景は
 - ①陸軍の伝統：白兵主義と精神主義
 - ②WW1戦を未経験（とも言える）
ノモンハンでは手痛い目にあったのだが・・・
欧米の状況は把握していたし、情報は得ていたが・・・
 - ③日清・日露戦の勝利に驕り
 - ④北方作戦態勢のまま南方作戦に投入
 - ⑤対支作戦からの切り替えが不十分なままでの
島嶼作戦

**Q9(参考) ノモンハン事件の真実**

通説：日本軍は近代的なソ連軍に完敗し惨憺たる結果、隠蔽

真実：
ソ連軍の人的損害は日本軍よりも大(2001年公開ソ連資料)
戦車・装甲車の損害 日：36/92 ソ：約400
航空機 日：179機 ソ：251機

評価
日本軍は健闘
第一次事件は互角、第二次事件ではボロ負け
近代的ソ連軍に対する認識改め
北進論に対する影響

**Q9 海軍の場合**

- 真珠湾及びマレー沖海戦 →航空主兵論すら台頭
- 日米戦 前：航空母艦6隻、戦時中22隻 努力はした。
- 第一航空艦隊(世界初の空母機動部隊とも)、
航空艦隊(基地航空部隊の活用)
- 日米航空機の生産力 S19：2.8万機対10.1万機
- 航空重視論への転換
 - ・山本大将：航空主兵と戦艦主兵 本音は？
 - ・大西滝次郎：1937/7 航空戦備に関する研究パンフ
 - ・真珠湾後でも戦艦主兵が大半
 - ・MI戦後：航空優先戦備の方針決定
 - ・ガ島後の第三段作戦で航空主兵への兵術思想統一

**Q9 大転換の困難性**

後知恵かも知れぬが・

- 1 新たなドメインに対応し得る柔軟性
戦略・戦術思想の転換は、
- 2 貧弱な国力では対応能わず
- 3 時代を先取りし得る先見性を磨く！

**Q 10**

**Q 日本軍は悪逆非道の軍隊なりしか？
連合国はどうだったのか？**

- 1 日本軍の犯罪とされるもの
- 2 米国
- 3 ソ連
- 4 支那
- 5 その他の国

**Q10 日本は**


- 1 日本の戦争犯罪とされるもの等
全てが捏造とまでは云わないが、日本を貶めるた
めの悪意ある宣伝戦



- 2 メモランダム
 - ①7話 杉原千畝だけではないユダヤ人への人道的対応
 - ②17話 南京大虐殺に係る論点
 - ③26話 捕虜に係る虐待事例や認識の差
 - ④28話 百人斬り論争は決着しているのでは？
 - ⑤35話 誇大宣伝か？人体実験(七三一部隊)
 - ⑥169話 戦場の武士道精神
 - ⑦180話 日本軍政の特色(蘭印の例)
 - ⑧189話 危険を顧みず敵兵救出(海軍航空隊、雷)

参考113話 建前の本音の戦場の性

**Q10 連合国等は？(1)****1 米国**

- ①22話 原爆投下：日本政府の抗議と東京原爆裁判
- ②23話 原爆投下正当論は今なお根強い
- ③54話 本土無差別空襲は戦争犯罪そのものだ
- ④55話 **(*)** 学童疎開と悲劇
- ⑤146話 リトルボーイ、ファットマン
& パンプキン 
- ⑥154話 マニラ無防備都市宣言
- ⑦165話 自らの非を認めたことは評価できる
- ⑧171話 無慈悲・徹底的な日本破壊作戦

* 配布資料では59話と誤記

**Q10 連合国等は？(2)****2 ソ連**

悪逆非道の国家・軍隊

メモランダムに6話

14話 ソ連の対日領土的野心

(真岡郵便局事件1940/8/20 自決は軍の命令との碑文は根拠なく、書き換えられた。)

20話 斯かる蛮行許すまじ！従軍看護婦の集団自決

27話 シベリア抑留 捕虜か抑留者か

111話 満蒙開拓団、悲惨な逃避行

161話 エラプカからの告発

163話 無抵抗の抵抗：ハバロフスク事件

**Q10 連合国等は？(3)****3 支那**

通州事件：猟奇度 理解し難い！

6話 通州事件、何たる猟奇度

134話 国民党軍の無道な作戦と日本軍の人道対応

4 その他の国

77話 カウラ事件と日豪関係

174話 その名も悲し、恋飯島(レンバントウ)

175話 国民性の差なのか、復讐心の烈度の差か

国民性というよりその民族の文化の差なのではないか？

**Q 11****Q 呼称が統一されていない「今次の大戦」
何故、統一できないのか？****1 呼称の数々****2 政府等の対応****3 真の問題は何か？****Q11 今次戦争の数々の呼称**

○代表的呼称(立ち位置により使用語彙が違う)

- ・太平洋戦争(GHQの「太平洋戦争史」)
- ・大東亜戦争(GHQにより禁止)
- ・15年戦争 満州事変以降を一連の戦争と捉える
家永三郎氏著から普及
一連の戦争と捉えることには無理があるとも。
- ・アジア・太平洋戦争
国際政治学者提唱 太平洋戦争では中国戦線が過小
評価、大東亜戦争では侵略正当化との考え
- ・昭和戦争 読売新聞
満州事変から終戦まで

**Q11 今次戦争の呼称問題**

○政府の対応

法令上の定義は存在しない

一部では「太平洋戦争」

大東亜戦争の使用を禁止していない。

統一されて居ず、文脈等による。

「今次の戦争」「先の大戦」「過去の戦争」

「過ぐる大戦」「第二次世界大戦」etc

○マスコミは太平洋戦争が多い。

○教科書は、太平洋戦争が多く、次いで大東亜戦争

○大東亜戦争は、政府が正式決定した合法的呼称
大東亜戦争の呼称決定 (1941/12/10) 閣議決定**真の問題は、国家としての正史が確定されて
いない事だ。**

**Q 12****Q 大東亜戦争の戦争目的とその達成状況は？**

- 1 戦争目的
開戦の詔勅
帝国政府声明
- 2 自存自衛は達成し得たか？
- 3 大東亜共栄圏又はその趣旨・狙いは達成し得たか

**Q12 戦争目的**

大東亜戦争の戦争目的

開戦の詔勅 (12/8) : 自存自衛

帝国政府声明 (12/8 1200)

開戦の詔勅を受けての政府声明

「自存自衛」のほかに「アジア解放」を明示している。

「而して、今次帝国が南方諸地域に対し、新たに行動を起こすのやむを得ざるに至る。何等その住民に対し敵意を有するものにあらず、只米英の暴政を排除して東亜を明朗本然の姿に復し、相携へて共栄の楽を分たんと祈念するに外ならず、帝国は之等住民が、我が真意を諒解し、帝国と共に、東亜の新天地に新たなる発足を期すべきを信じて疑わざるものなり。」

**Q12 戦争目的の達成**

○戦争目的の達成状況

自存自衛：連合軍に敗れる。

大東亜共栄：ビルマ、フィリピン、自由インド仮政府
ベトナム、ラオスが独立し、
インドネシアが独立宣言(1946/8/17)

- * 「戦争目的達成と評価できるのでは」との論も
- * 軍事的には敗れたが戦争には勝った論をどう考えるか？

**Q 13****Q 大東亜戦争は侵略戦争だったのか？大東亜戦争に対する様々な評価は？**

- 1 侵略戦争論の定着
- 2 侵略戦争論の妥当性等

**Q13 侵略戦争論の定着？**

- 1 歴代首相
 - (1) 細川首相発言、1993 (H5) /8/10
初記者会見で侵略戦争であったと明言
所信表明演説「侵略行為や植民地支配について反省とお詫び」
韓国金泳三大統領に「植民地支配」について直接謝罪
 - (2) 村山談話(戦後50年の首相談話) 1995 (H7) /8/15
「国策を誤り戦争への道歩んで国民を存亡の危機に陥れ、植民地支配と侵略によって諸国民に多大の損害と苦痛を与えたことを反省し、謝罪を表明する・・・」
*** 100年談話は？**
 - (3) 政府の対応：村山談話を基本的に踏襲
菅政権 (2021/6/25 踏襲決定閣議決定)
- 2 世論調査 侵略戦争肯定率
対中戦 68%、
日中戦、日米戦共に、3 4%

**Q13 侵略戦争論の妥当性は**

- 1 田中上奏文は偽書 共同謀議の胡散臭さ
 - 2 対支戦：戦火の拡大防止できず、泥沼に、侵略意図なし、反日・毎日挑発事案頻発
 - 3 和平工作行方も結実せず
 - 4 コミンテルンの暗躍、邦人保護の軍事行動
 - 5 支那への軍事援助等
 - 6 日本は出口なき戦い 米国は裏口参戦虎視眈々と
 - 7 侵略と自衛の線引きは
 - 8 強いられた戦争
もがき苦しむ日本の姿が浮き彫りなのだが・・・
- * ビスマルク「国家は敗戦によっては滅びない。国民が国家の魂を失ったときに滅びる。」



Q 14

Q 陸軍は何故、政治化したのか？

昭和の事変、戦争或いは国内の争乱を見て感じることは、陸軍の政治化である。軍人勅諭で、政治に拘わらずと示されたにも拘わらず、政治化したのは何故だろうか？

○その要因と背景等



Q14 陸軍の政治化の要因・背景等？(1)

軍人勅諭にも拘わらず昭和期の陸軍は政治化

- ①陸軍の特性上 兵士の状況承知機会大
- ②総力戦時代における国家態勢に対する不満
- ③日清・日露戦争の元勲不在
- ④政争に明け暮れ、社稷を想わぬ政治(家)に対する不満
- ⑤エリートなるが故の独善
- ⑥革新風潮に染まる
- ⑦統帥権独立と軍部大臣武官制の効用を承知
- ⑧軍事専門家としての意見を反映させるべきとの意識傾向大



Q14 陸軍の政治化の要因・背景等？(2)

- ⑨政治・軍事の利害対立を調整すべき存在システムの欠如
- ⑩大正デモクラシーの影響で、軍人も政治に関心
- ⑪国内混乱時における軍の秩序維持機能に目覚め
- ⑫安全保障優先主義、軍の使命
- ⑬国民領導は軍の責務との思い込み
- ⑭天皇は理解して呉れる筈
- ⑮迂遠な手段より直接的手段を重視する傾向
- ⑯政軍関係無知
- ⑰軍事を理解せぬ政治に対し不満
- ⑱純粹培養の弊害



Q 15

Q 陸軍悪玉論は正しいのか？

『頑迷固陋な陸軍が、世界情勢を無視して強硬姿勢で、敗けると解っている戦争に自ら突入し自滅していった。海軍は世界情勢に通暁し、我が国の国力を冷静に判断し、反戦の立場だったが、陸軍に引き摺られ心ならずも戦争せざるを得なくなった。』とされる。

即ち、大東亜戦争の全責任が陸軍に帰せられているが、果たしてそうなのだろうか？

- ・「海軍善玉論」と対になって語られている。

○ 陸軍悪玉論の是非



Q15 陸軍悪玉論の是非(1)

- ①初期南方作戦後の戦争指導において、当初の構想から意図的に逸脱したのは海軍だった。
- ②真珠湾奇襲は必須の作戦だったのか？
- ③陸軍に対する海軍の戦況を正しく通報しなかったのは、背信行為ですらである。
- ④陸主海従への反発(伝統的な陸軍主兵論)
- ⑤海軍は海軍の作戦のみを考え、日本の戦争指導を全く考慮していない。



Q15 陸軍悪玉論の是非(2)

- ⑥陸軍就中東条悪玉論を陸軍は引き受けた。
メモランダム172,173話
(明暦の頃の町奴 仁佐)
- ⑦戦後の作家達の海軍礼賛が人口に膾炙した。
きわめて影響力太
学徒出身の元海軍軍人の海軍最良
作家阿川弘之(海軍提督三部作、雲の墓標等々)
(山本五十六、米内光政、井上成美)
陸軍出身であるが、司馬遼太郎氏
- ⑧海軍の南進論は、対米戦を惹起する可能性大。抑々南進論を主張する必要性があったのか？海軍の戦備上のロジックとしての対米戦ではなかったのか？
- ⑨国防計画の分裂と統合調整システムなし



Q 16

**Q 欧州の戦局に翻弄される日本、
為す術なしか？国際情勢の大局観は？**

- 1 欧州戦局と日本の対応
- 2 独ソ戦に伴う国策の再検討
- 3 国家戦略



Q16 欧州戦局と日本の対応

- 1 時程
 - 1937/7/7 支那事変
 - 1939/5～ ノモンハン事件
 - 1939/8/23 独ソ不可侵条約 9/1 独ポーランド侵攻
 - 1939/8/28 平沼内閣総辞職 * 1
 - 独軍 欧州戦域で快進撃(1940/6/14 パリ無血入城)
 - 1940/9/27 日独伊三国同盟 * 2
 - 1941/6/22 独軍ソ連に侵攻 * 3
- * 1 日本は、ソ連対抗上独との連携模索しつつあるなかでの、「独ソ不可侵条約」締結
「欧州の天地は複雑怪奇」との迷言？
(平沼騏一郎内閣総辞職 1939/8)
- * 2 動機・目的は？ 米国牽制、枢軸外交への転換
- * 3 日本の国策再検討
(熟柿北攻、好機南進etc) 南進論有利



Q16 独ソ戦と国策再検討

- 1 独ソ開戦 (1941/6/22) に伴う国策の検討
 - 1941/1/30、4/17 対南方施策要綱
 - 4/13 日ソ中立条約
 - 6/25 南方施策促進に関する件 南部仏印進駐決定
 - 6/22 独ソ開戦
- 2 国策再検討
 - 7/2 情勢の推移に伴う帝国国策要綱(御前会議)
 - 熟柿北攻、好機南進、対米英戦を辞せず
- 3 永野軍令部総長 南進
松岡外相 進駐に反対
“対米戦を辞せず” 復活は海軍主張



Q16 その他

- 1 中独連携
 - 第二次上海事変(1937/8/13～)苦戦の原因
 - 中独の軍事・経済的連携
 - 1936/11 日独防共協定締結しており、独は友好国ではなかったのか？
 - 独顧問団の引揚げやっど：1938/6/24
 - 2 支那事変泥沼化の仕掛け人
コミンテルンの暗躍があった。
国共合作を阻止し得なかったのか？
 - 3 中国の国際宣伝戦
 - 4 米国の政治状況等に対する分析不足
- * 戦略情報の収集分析力が弱体



Q 17

Q 南進論と北進論、何れを選択すべきだったのか？

陸軍は伝統的に北進論(対ソ作戦重視)で、海軍は対米戦を想定しての海軍力の造成を行ってきた。陸軍の北進論を牽制すべく南進論を唱えた。大東亜戦争で、南進か北進かの岐路に立たされたのは、独ソ戦開始に伴う国策決定においてである。



Q17 評価

- 1 南進論は対米英蘭戦を覚悟すべきだった。
(英米可分・不可分論あり)
- 2 南進・北進にも反対の近衛首相のリーダーシップに問題、南部仏印進駐承認は対ソ開戦論阻止？
- 3 決意なき修辞「対米戦辞せず」
- 4 独ソ戦に連携しての北進出来ず、結果的にソ連は息を吹き返したのだが・・・
- 5 陸軍は関特演を敢行
- 6 抑々国家戦略の腹が定まっていなかった。

**Q 18****Q 大東亜戦の前史としての満州事変の評価等？**

- 1 1931/9/18 柳条湖事件
1931/9/19 不拡大方針閣議決定
1931/9/21 朝鮮軍の独断越境
- 1933/5/31 塘沽停戦協定(満州事変終息)
- 2 満州国建国 (1932/3/1)
リットン調査団(1932/3~1932/10)

**Q18 満州事変の評価**

- 1 帝国陸軍の悪弊が顕現
- 2 満州事変の不拡大方針の挫折
関東軍の専行と陸軍中央の追認
- 3 リットン調査団報告書の評価
日本に有利な内容との評価が高いのだが・・・、
100点でない満足できない？
- 4 陸軍の人事 温情主義の弊

**Q 19****Q 日独伊三国同盟は必須だったのか？**

- 1 締結に至る経緯
- 2 日独軍事連携・協力の実態は
- 3 評価

**Q19 締結経緯**

- 1 締結に至る経緯
1936/11/25 日独伊三国防共協定
1939/9/1 WW2 勃発 (8/23 独ソ不可侵条約)
1940/9/27 日独伊三国同盟締結
陸軍主導
狙い：日=対米牽制
独=米に二正面強要による参戦防止
自動参戦条項：事実上空文化
1942/1/18 軍事協定締結
(作戦区域：東経70度で、相互協力)

**Q19 日独軍事連携・協力の実態**

- 2 日独軍事連携・協力の実態は
 - ・ 初期進攻作戦 香港、マレー・シンガポール
攻略は独にも益
 - ・ 独ソ戦開始 (1941/6/22)
独は対ソ攻撃を期待するも日本は
「熟柿北方論」
 - ・ 陸軍は印～西阿打通、アフリカでの日独提携
を企図？ エル・アライメンで夢と潰える。
 - ・ 英国とアジア遮断のためのインド洋作戦
(セイロン沖やマダガスカル作戦、遣独潜水艦
作戦)

**Q19 三国同盟の評価**

- 3 同盟の評価は
 - ①軍事同盟ならではの密接な戦略調整は？
合同戦略調整会議なく、事前通知もなく、
 - ②日本が独の実情を知らず、独は対ソ重点で日本の対ソ
参戦を望み、日本はまず英屈服を狙って中近東での日
独連携を望んでいた。
 - ③余りにも懸隔しており、実質的な軍事的連携は期し難
かった。(実質的共同作戦皆無)
 - ④米国に、欧州と太平洋という二正面作戦を強いたとい
う点では効果
 - ⑤本同盟の狙いが米国参戦の牽制・抑止・防止であるな
らば、日米英蘭戦開始で同盟無用になったとも云える。
 - ⑥連合(共同)作戦と云うには余りにもお粗末な日独連携
だ。

**Q 20**

Q 大東亜戦争における国家戦略上の課題・問題点は何か？

**Q20 私見**

(国家戦略上の課題)

- 1 対支作戦、対米英蘭戦、対ソ戦、何を優先すべきか？ 戦争相手の限定が肝要
- 2 米国の介入を許さぬ方策は無かりしか？
- 3 何処の国を信頼すべきかの判断と選択
- 4 大陸国家群との付き合い方
- 5 激変・流動的な国際情勢の収集分析力
- 6 軍事戦略の大局からの総合調整システム
- 7 厳しい決断を為し得るリーダーシップ

**Q 21**

Q 日本は戦争を総括したのか？

- 1 戦争調査会
- 2 東京裁判と並行的に実施
- 3 その挫折

**Q21 戦争調査会の概要**

1945 (S20) 10月30日閣議決定「戦争調査会」発足

- 幣原喜重郎総理の発意
幣原が総裁、長官に青木得三庶民金庫理事長）以下5部会
政治・外交（斎藤隆夫衆議院議員）
軍事（飯村穰陸軍中将）
財政・経済（山室宗文元三菱信託会長）
思想・文化（馬場恒吾読売新聞社社長）
科学・技術（八木秀次大阪帝大総長）
- 東京裁判と並行的に調査
諸外国が疑念を抱き、米国の意向もあり吉田首相が廃止決定

**Q21 戦争調査会の意義等**

戦争調査会の意義等

- 画期的試みではある。冷静かつ客観的な調査には限界
- 公平性・中立性は
人選？敗けた者が敗けた者を裁く？
- 時期尚早
東京裁判との関係もあり、公職追放もあり、調査会には微妙な問題内蔵

* **されど、未だに総括していないのでは？**

**Q 22**

Q 大東亜戦争を通じて露呈した日本(人)の弱点は何か？

(メモランダム200話を通じて感じた小生の想い)

**Q22 日本人の弱点等(1)**

- ①徹底的な議論を避け、文言的に妥協した玉虫色の決着
初期南方作戦後の戦争指導に関する「今後採るべき戦争指導の大綱」の策定
- ②権威主義
MI作戦の敢行 山本長官の信念、名声・威令に軍令部屈服、長官の恫喝に屈した。
- ③身内意識・温情主義、庇い合い、結果良ければよしとする風潮
現地部隊等の独断専行、下克上、上級司令部の命令・指示違反等に対する処分なし、上級司令部の追認、一時的な人事措置有るも何れは要職復帰
明治期の陸軍では斯かる越権・不法行為は起きていない。
陸軍何故変質したのか

**Q22 日本人の弱点等(2)**

- ④日本の敗因の内「国民性・文化・風土等」
 - ・温情的人事 ・表面的妥協を是とする性向
 - ・現状認識や戦果確認の不十分
 - ・熱狂 ・扇動的国民性 ・独善的或いはお人好し
 - ・強硬論や声望の大なる者の意見に引き摺られ或いは左右される性向
 - ・言外の理に依拠（明快な命令・指示は？）

参考 マ元帥の日本軍評
兵員の素質は最高水準
将校は上級ほど素質が落ちる。階級主義と封建的な制度
厳密な職業的能力による評価が出来ていない指導者に問題

**Q 23**

Q 大東亜戦争の世界史的意義をどう考えるか？

**Q23 世界史的意義(1)**

- 1 保護主義国家及び国家群の存在 国際的リスク管理
- 2 敗者にも相応の言い分があり、それは十分に考慮
- 3 国家間相互の警戒感、悪感情、嫌悪感は増幅され、負のスパイラルに陥る懸念。
- 4 制裁のリスクを至当に判断
- 5 紛争相手を極端に追い詰め→窮鼠猫を嚙むに似て問題が大きくなる可能性
- 6 国際連盟の無力さが浮き彫りになり、欠陥が明確に
- 7 白人優越論に風穴、アジア諸国等に自国近代化、劣等意識を払拭し、自信
- 8 欧米植民地主義に対する異議申し立て

**Q23 世界史的意義(2)**

- 9 理想論や原則論を振り回すことの愚を知るべし。
- 10 敗戦国に対する弱体化政策や一方的な史観の押付は武力征服以上に悪辣
- 11 敗戦国に対する戦争犯罪裁判の妥当性に対する疑義、復讐裁判との認識広がる。
- 12 国際的に、戦争を如何に規定し管理するか？
- 13 原爆の非人道性が明白になり、大量破壊兵器の抑制的管理方策が模索
- 14 国家としての態を為さない国家に対して、国際社会は如何に関与すべきか？
- 15 国は戦いに敗れても、国民の高いモラル、道義心、愛国心（殉国心）、文化・教育力があれば国家の再建は可能
- 16 過酷な国家賠償は、反発心を惹起する。

**Q 24**

Q 遺された課題は何か？

戦後75年を経た今日、経済的には復興したものの、未だ残された課題が多々あると思われる。我が国の再生を願いながらそれらを考察する。

**Q24 我が国の再生を目指して(1)**

- 1 戦争の呼称について
- 2 国民自らの手で新たな日本の姿を確立する必要
- 3 大東亜戦争に係る正史の確定
- 4 謂われなき誹謗中傷に対し毅然と反論、対外発信力の強化
- 5 露呈した日本人の弱点、日本型組織運営の欠陥等は正努力
- 6 反省すべき点は謙虚に反省する必要
- 7 国家的リーダーの育成
- 8 戦没者の慰霊・顕彰に関する国家施策等の確立

**Q24 我が国の再生を目指して(2)**

- 9 アジア諸国との共存共栄、地域の文明的リーダーとしての役割
- 10 大東亜戦争の意義の再確認
- 11 日本人は自らに自信と誇りの恢復
- 12 外国に多大なる損害を与えた事実を認識
- 13 戦争の責任：一部の戦犯とされた者のみでなく、自らにも責任
- 14 真正面から大東亜戦争に向かい合って将来の日本のための教訓を
- 15 「戦争の犠牲」という語彙？
- 16 人間教育
- 17 若者に対する大東亜戦争についての相応の教育

**Q 2 5**

Q 大東亜戦争を俯瞰して澱のように沈殿しているものがあるやに感じられる。

それが「レイシズム」

それは現代でも時折地下の割れ目から噴出している？

**Q25 大東亜戦争とレイシズム**

- 1 米国の対日警戒感
日露戦争、国際連盟人種差別撤廃決議提起
同人種同盟、亜細亜民族会議etc
- 2 某国の深層心理にあるもの
黄禍論
脅威：日中印の反西洋同盟
汎アジア主義に対する異常な警戒感
日本がアジアの盟主となり反欧米化
大東亜共栄圏容認できず
- 3 日中の和解は欧米の悪夢
- 4 英独もレイシズム VIPの発言や政策に反映
- 5 結局、日本は中国と和解出来ず、・・・

**QX**

Q 結びに代えて

- 1 陸軍は政治的、海軍には戦術あって戦略なし
- 2 下士官・兵は優秀、将校は上級ほど問題？
- 3 日本の弱点を認識すること肝要
- 4 日本の不幸は陸海軍の対立であり、それを克服できなかったことだ。
- 5 日本再生に向けて
 - ・大東亜戦争に正面から向き合い
 - ・正史の確定



御静聴有難う御座いました

URL: <http://yamashita2.webcrow.jp/>

Email: yamashita.teruo.age73@gmail.com

(公財)大東亜慰霊協を宜しくお願い致します。
<https://www.ireikyoku.com/>

